

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和6年3月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771101181		
法人名	有限会社 清寿会		
事業所名	グループホーム正寿苑		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府岸和田市稲葉町2552-2		
自己評価作成日	令和6年2月15日	評価結果市町村受理日	令和6年4月10日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2771101181-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和6年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑は自然豊かな緑に囲まれて日々季節を感じるができます。
日当たりのよいテラスでは日光浴やバーベキューを楽しんでいます。
子連れ出勤が可能なのでスタッフの子供たちと遊んだり、一緒にダンスなどもされて楽しく体を動かしています。個々に得意なことを活かせるよう支援しています。
スタッフの年代も幅広く20代前半～70代までいつでも利用者と家族のような光景がよく見られます。普段の様子は家族の同意を得た方はSNSで随時見れるようになっていて毎月、個別に日々の暮らしぶりや健康状態や食事、受診のこと写真をつけて家族に送っています。医療連携もスムーズに対応しており、看取り介護の研修は全員が受けていて看護師とも24時間オンコール対応で利用者もスタッフも安心して介護できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム正寿苑は自然豊かな丘陵地にあり、事業所の敷地も広く、庭には桜の木がある。気候の良い時はテラスで茶話会を開き、四季を感じたり日光浴ができる。災害対策等に備え、庭をコンクリートに変更し、車いすでもスムーズに移動ができるように改善を図っている。ランタンや食料を3日分備蓄しており、地域の事業所とも連携を図り、相互に支援協力ができる関係を構築している。共用空間はリビングダイニングと対面キッチンがあり、調理音や匂いを感じることができる。居室は1室を除き畳の部屋である。事業所は利用者と職員と一緒に会話や家事を楽しみながら、家庭的な雰囲気でも過ごせるように取り組んでいる。長く勤めている職員も多く、利用者の顔馴染みとなっている。現在は、面会や外出制限を行っておらず、自由に家族等と接することができる。最近ではインスタグラムを活用し、事業所の行事や利用者の暮らしなどを配信し、雰囲気などが家族等へ伝わりやすくなるように工夫している。近隣住民とは旬の野菜や果物の差し入れや地域の清掃活動などにも参加し、友好的な交流を図っている。内科・精神科・歯科などの往診がある。また協力医療機関とは24時間365日連携を図ることができる。看取り介護も行っており、今までに5名程度の実績がある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟玄関、リビングに理念を掲げている。希望とゆとりがある安心した生活を送れるよう共に尊重しあえる関係づくりができるよう努めている。	「ご利用者様の人格を尊重し敬愛をもって接し希望とゆとりのある生活を目標とする」の法人理念がある。朝礼で人格を尊重した声かけや利用者本位の業務を行っているかを確認している。入職時や研修などで年1回程度は理念について話し合う場を持っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住宅が少ないので日常的にはないが十日戎など行事に参加し挨拶など交わしている。近隣の方が声をかけて頂き、畑や庭にお花見にお邪魔することもある。	積川町と稲場町の二つの町内会に加入している。回覧板は無いが、町の行事の連絡や溝掃除などの清掃活動へ参加している。近隣住民とは散歩時に挨拶したり、旬の野菜や果物の差し入れなどもあり、友好的な交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は町内で認知症についての研修を行ったことがあるが最近では実施していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催時、活動や利用状況、取り組みを報告し意見や助言を頂きサービスの向上に活かしている。	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、市の担当者や地域住民等が参加している。平日に開催しているので家族への呼びかけは行っていない。会議で出た意見等は朝礼で話し職員と情報を共有しサービスに反映している。議事録は残しているが職員の閲覧はない。	家族へ運営推進会議に参加するための呼びかけを行い、サービスの向上に活かせる取り組みに期待したい。また議事録を回覧するなど、全職員が情報を共有することが望ましい。

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市の介護相談員の受け入れ、運営推進会議の参加、事故報告や相談があれば連絡している。生活福祉課や社会福祉協議会とも連携を図っている。</p>	<p>取締役兼苑長は市役所へ足を運び、毎月1回は介護保険証等の更新申請などで市の担当者と顔を合わせ、2ヶ月ごとに運営推進会議で情報交換を行っている。その他、3ヶ月ごとの施設サービス部会で市の担当者との意見交換をするなど、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束と人権侵害についての研修は年間研修計画に取り入れている。必ず全員が受けてレポートを書いて振り返るようにしている。薬や言葉で制限することも拘束になることを認識しケアに取り組んでいる。</p>	<p>内部研修を年1回実施し、職員はレポートを提出し、取締役兼苑長は理解度を確認している。また、外部研修へ参加できるように取り組んでいる。不適切な言動があった場合は、その都度取締役兼苑長が指導している。各ユニット出入口や玄関は解錠しており、外出希望があれば職員が付添って外出している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待の防止についての研修を年に一度行っている。アンガーマネジメントを理解してルーティンワークにならないよう又、不適切なケアしていないかチームで防止に取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護、市民成年後見人制度を利用されている方がおり、必要性については理解できている。今後も活用できるようにしていきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、重要事項説明書や契約書の説明を行っている。法改正などの際も説明し同意を得ている。</p>		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入苑時に要望や意見は必ず聞いている 普段から利用者との関わりの中から個々の思いや意見を引き出せるよう時間を作っている。面会時に家族の意見や要望を聞いて運営に反映している	利用者とは普段の会話から意見や要望を聴き取っている。家族には毎月「お便り」を郵送し、来所時に利用者の普段の様子を話しながら、意見等を言い易い雰囲気作りに努めている。聴き取った情報は支援経過や申し送りノートに記載し職員間で情報を共有し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	個別面談やカンファレンスを通じて意見や提案を聞く機会を設け働きやすい環境づくり、利用者のケアに反映している。	取締役兼苑長は普段から職員と一緒に働き、職員との距離が近くなるように努めている。随時職員の意見を聴き取り運営に反映している。職員のヘアスタイルやネイルなどの清潔感が持てるお洒落をすることや、事業所の行事や利用者の暮らしぶりをInstagramで紹介するなど、職員の意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況の把握に努め一人ひとりの勤務状況を把握して評価をしている。働きながら資格取得できるようシフトの調整などもしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間社内研修を月に一度の頻度で行っている。全員が受けれるよう、動画で撮って、不参加の方に見て頂いている。資格取得の際には相談にのって本人が安心して取り組めるよう協力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	岸和田市の介護保険事業者連絡会を通じて他事業所との交流している。市内8か所のグループホームと情報交換会を開催し制度や現在の状況や困っていることの相談などを行っている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の状況、生活歴や習慣をお聞きしスタッフとのお話の時間を作り、信頼関係が築けるよう努めて本人や家族が安心できるようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談の段階で困っていることなど状況をお聞きして本人が安心できるような環境づくりをしている。本人が安心できるよう思いを傾聴しその内容をみんなで共有できるようにしている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からの情報を基に状況を理解し本人にとってより良い環境で生活ができるように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを役割として行ってもらっている。洗濯や調理などを一緒に行ってる中で家族の一員として共に支えながら生活している。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当者から利用者の家族に本人の様子がわかるように写真いりのお便りを送っていて家族から楽しみにしているとお声を頂いている。家族が来苑された際は本人も一緒にお話しをして関係づくりをしている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は家族の協力を得ながらお墓参りや以前の住居の近隣のかたに会いいくこともあったがコロナ以降近所や親せきの方の面会ぐらいできていない。	入居時に利用者や家族から生活歴等の情報を聴き取っている。普段の会話からも聴き取ることがあり支援経過へ記載し、職員間で情報を共有している。積川神社の十日戎で知人と会うことや、家族の協力を得て、墓参りや自宅へ戻るなど、馴染みの関係が継続できるように支援している。	家族等の協力を得て、馴染みの人や場の関係を継続しているが、事業所として積極的に馴染みの人や場との関係性が継続できるような取り組みに期待したい。

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりに状態に応じて食事の席の位置や会話などには気をつけている。利用者同士の会話やできることを考慮して都度、席の入れ替えを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の際に着ていた衣類を思い出の品にリメイクしてお渡しする。退去後もなにかあれば連絡が可能であることを伝えている。入院された際などは以前は面会に行っていたが、コロナ以降はできなくなっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや意向に添えるよう記録しみんなで共有できるようにしている。意思疎通が困難な方は行動や表情、家族からの情報を得ている	職員は利用者と一緒に家事を行っている時に思いや意見を聴き取っている。聴き取った意見等は介護記録や申し送りノートに記載し、職員間で情報共有している。意思疎通が困難な利用者には、その時々表情や仕草から思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入苑相談時から生活歴や習慣などをお聞きして今までの生活環境、習慣、希望や思いをお聞きしている。入苑後の経過や会話から気づいたことを記録して情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化や生活状況を観察し本人ができることやできないことを把握し残存能力が発揮できるよう自信を持ってできるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、利用者を現状を記録し都度、カンファレンスで話し合っている。3か月のケアプランまたモニタリング時に家族や本人の意見や要望を伺い、様々な意見を取り入れて作成している。	介護計画とモニタリングは3ヶ月ごとに作成し、心身の状況等に変化があった場合も見直している。事前に聴き取った利用者や家族の思いと意向、医療従事者の意見を基に、カンファレンスを開催し、職員と話し合い介護計画に反映している。	

27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の介護記録に記録して情報共有し心身の状態の把握に努めている。健康面でも通院報告者や申し送りなどの記録を活用してモニタリングしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望や意見を取り入れ必要とされるサービスに取り組んでいる。入退院の支援や身の回りの物品購入や本人にとって必要なサービスの支援は家族の状況によって行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は町内の行事(近くの神社での初詣や十日戎、消防訓練)や盆踊りなどに参加していたが、コロナ過以降は中止している。現在は介護相談員の受け入れは再開している。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の(主治医)の選択は本人又は家族に選択して頂いている。苑の連携しているDrを選ばれた場合は以前のDrの情報提供書を頂きスムーズに適切な医療が受けれるようにしている。又他の専門医への受診支援も行っている。	かかりつけ医は自由に選択可能であるが、事業所の提携医の往診が月2回ある利便性もあり、入居と同時に提携医を選択する利用者が多い。内科の他、精神科・歯科とも提携しており精神科が月2回、歯科が月4回の往診がある。家族と一緒に外来受診した場合も含め、受診記録は全て通院報告書に記載し、職員はいつでも閲覧できるようにしている。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護ステーションと契約し毎週健康管理して頂いている。24時間オンコールで対応して頂き、普段から不安なことや気づいたことなどに適切にケアできる関係ができています。		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された場合は本人の状況、生活の様子、認知症状を含めて病院に情報提供している。病院側の退院に向けたカンファレンスにも家族と一緒に参加し、早期に安心して退院できるよう連携している。コロナ過前は面会に行き関係が途切れないようにしていた。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>職員はターミナルケアについての研修を受けており、重度化した場合は本人、家族の意向を聞き、主治医や看護師などと連携をしながら支援している。本人の状態に応じて家族に説明し早めに苑で出来ることなどを説明し最期まで本人らしく過ごせるように取り組んでいる</p>	<p>契約時に看取りの指針について説明を行い、同意を得ている。その後、終末期になり、改めて家族と終末期の支援方法を話し合い、その支援方法について同意を得ている。取締役兼苑長は職員に対し、「悔いが残るような看取り介護」とならないように、今できることは何があるのかを考えるように指導している。また過去には5名の看取りの実績がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDの設置に伴い、緊急時の研修を受けている。又急変時は24時間オンコールで訪問看護ステーションの連絡できる体制をとっている。事故発生時は緊急連絡先順により適時、対応している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>コロナ過で避難訓練はまだ行っていないが、予定している。BCP策定途中ではあるが、防災の研修に参加してまずできる予防はしている。災害に備えて飲料水、ランタン、ポータブル充電器、カセットコンロなどは備蓄している。食料はプロパンガスなので米の予備で対応。</p>	<p>防災マニュアル及び防災対策BCPも作成済みである。夜間想定訓練は今年3月に実施予定している。災害時にガスの供給が止まらないようにプロパンガスの使用を継続している。飲料水や白米、インスタントラーメン等を職員と利用者を含め3日分を備蓄している。地域の事業所とも連携を図り、相互に支援協力ができる関係を構築している</p>	<p>夜間想定を含めた避難訓練を年2回、実施することが望ましい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修はまだ行ってないが入職時に秘密保持の誓約書を交わしている。個人情報については書類は鍵付き書庫、パソコンはパスワード設定で閲覧履歴がわかるようになっていて。介護ホスピタリティーの研修を通じて言葉かけや対応について勉強し実践を心かけている。又SNSや写真掲載については個々に同意書を交わしている。	取締役兼苑長は、職員が利用者と慣れ合った言葉遣いとならないように指導している。また、入室時のノックや利用者の羞恥心が感じられる支援については十分に配慮するように指導している。現在、人権擁護・プライバシーの研修は行ってない。	年1回は研修を実施することが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや希望が言えるような環境に配慮し家族からは今までの暮らしぶりや習慣や好まれていたものを聞き、意思表示ができない方は日頃からの言動や表情を観察しできることを増やせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常のスケジュールはあるが、個々の生活習慣やリズムの把握、本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入苑時には今まで着ていた衣類を持参して頂くようにしている。衣類が不足している時は家族に持参して頂いたり、一緒に買い物に行って選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に応じたものを出すようにしている。野菜の下ごしらえや洗い物などは積極的にして頂いている。本人が好きなものなど家族に依頼し提供したり、近所からの差し入れの野菜の処理を一緒にするなどしている。	朝食以外は専門業者から献立付きで食材を購入し、毎日届く食材を職員が調理し、提供している。利用者は、野菜の皮むき等の調理の補助や配膳・下膳を利用者の身体状況に合わせて職員と一緒にしている。またお好み焼き、ベビーカステラ、わたがし等は職員と一緒に作り調理を楽しむ工夫をしている。月1回の誕生日会では利用者の好きな食事を提供している。利用者は家族と一緒に外食している。	

41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個別に食事量、水分量を記録し必要量が取れているか確認している。水分が摂りづらい方は好みのもを用意したり夜間の空腹がある人には軽食などを提供している。体重は入浴毎に測定している。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを個々の状態に応じた方法で実施している。就寝前は義歯を預かり薬で洗浄。希望される方は4回/月、提携歯科により口腔ケアを実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個別の排泄パターンを把握し本人の排泄量や時間によって紙パンツやパットの種類を考慮して使用している。本人のプライバシーに配慮した声かけや介助を心がけている。</p>	<p>多くの利用者は、排泄パターンを把握しており、タイミングを見計らってトイレ誘導を行っている。また、寝たきりで常時オムツを使用している利用者や完全に自立している利用者も数名いる。入院時にオムツを使用していた利用者も、退院後は立位が可能であれば、トイレでの排泄ができるように取り組み、リハビリパンツに変更となった事例もある。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便確認と水分摂取の把握と適度な運動を働きかけてをしている。困難な方は腹部マッサージや繊維豊富な食べ物の提供をしても困難な方は主治医に相談し便薬の調節をしている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週3回、午後から入浴して頂いている。お湯の温度は個々の好みで順番を考慮したり、入浴剤の香りなども変えている。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂いている。入浴日でなく希望があれば他棟のお風呂を利用して頂いている。</p>	<p>基本的には一人あたり週3回、13時から15時半の時間帯で入浴できるよう支援している。希望があれば他の時間帯に入浴することも可能である。浴槽は、足を伸ばして浸かれるほどゆったりとした広さであり、利用者ごとに湯の入れ替えはなく、常時かけ流しである。希望に応じて皮膚の保湿効果につながる入浴剤を使用している。また季節に応じ菖蒲湯も提供している。リフト浴もあり、車いすとなっても浴槽で浸ることができる。</p>

46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>できるだけ、入苑前に使用していた寝具を持参して頂くようお願いしている。天候が良ければ、布団干し、シーツなどの洗濯をこまめに行い、生活リズムを整えて快適に就寝できるよう心がけている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個別に服薬の一覧表を作成しスタッフ間で情報を共有している。薬については効用や副作用は確認、理解し疑問点は連携している薬剤師にいつでも相談できるようにしている。往診には必ずスタッフが同行し病状の変化を報告し変薬の確認をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入苑時に得意や楽しみ、趣味を聞いてできることはして頂き、できないことはお手伝いすることで出来るよう支援している。好きな嗜好品はできるだけ提供できるようにしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>近所に散歩して季節の花などを楽しまれていることが多い。お買い物に同行することもあるがコロナ過からほとんど外食などはしていない。</p>	<p>コロナ前は社用車を活用し、弁当を持って海遊館や国華園やリサイクルセンターに外出支援を行っていた。コロナ禍以降は、以前のような外出はできていない。事業所の敷地が広いため、敷地内を自由に散歩することができる。外出は個別対応となるが職員と一緒に近くのスーパー等へ消耗品等の買い出しに行っている。</p>	<p>感染症予防に努めながら、遠方などへ出かける機会を設け、利用者同士での外出を楽しむための取り組みに期待したい。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には苑で立て替えて後日請求する形式だが、紛失しても支障のない少額のお金をもっておられる方もいる。買い物の同行でご自身でお金の支払いはされていない。</p>		

51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話は居室に持ち込み可能にしている。充電はスタッフが手助けしている。又持っていない方は事務所でいつでも使えるようにして、知人や家族からの電話はすぐに繋いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは音楽、光、温度、湿度が快適になるよう配慮している。季節が感じられるように花や壁面で工夫している。お料理や週刊誌の本やパズルなど利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。	多くの利用者は1日の大半を共用空間であるリビングで過ごしている。共用空間は、リビングダイニングと対面キッチンがあり、調理音や匂いを感じることができる。室温調整や清掃は職員が行い、利用者が過ごしやすくなるように配慮している。ネット配信サービスを活用し、利用者の観たい番組を提供している。気候の良い時はテラスで茶話会を開き、四季を感じたり日光浴ができる。その他、季節感を感じることができるよう季節に合った曲をBGMで流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、一人で過ごしたり。お昼寝をされたりしている。庭のウッドデッキなどで自由に寛いで日光浴などを楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた物を持参して頂くようにしている。（寝具や家具や仏壇など）本人の歩行や同線を考慮し安全で過ごしやすい環境になるよう工夫している。定期的に押し入れやタンスの整理や衣替えをしている。	居室は畳敷きであり、事業所の備え付けはエアコン、カーテン、クローゼット、洗面台である。ベッドを含め、その他の家具等は利用者が持ち込んでいる。家族に自宅で使っていた、好みの物や馴染の物の持ち込みを依頼している。こたつを持ってきている利用者もいる。職員が毎日換気と掃除を行っている。刃物類等の危険物以外の持ち込み制限はない。	

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やリビングは安全で過ごしやすい環境整備を行っている。タンスの引き出しに衣類の表示をして混乱しないよう配慮している。		
----	---	--	--	--

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟玄関、リビングに理念を掲げている。希望とゆとりがある安心した生活を送れるよう共に尊重しあえる関係づくりができるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住宅が少ないので日常的にはないが十日戎など行事に参加し挨拶など交わしている。近隣の方が声をかけて頂き、畑や庭にお花見にお邪魔することもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は町内で認知症についての研修を行ったことがあるが最近では実施していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催時、活動や利用状況、取り組みを報告し意見や助言を頂きサービスの向上に活かしている。		

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市の介護相談員の受け入れ、運営推進会議の参加、事故報告や相談があれば連絡している。生活福祉課や社会福祉協議会とも連携を図っている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束と人権侵害についての研修は年間研修計画に取り入れている。必ず全員が受けてレポートを書いて振り返るようにしている。薬や言葉で制限することも拘束になることを認識しケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待の防止についての研修を年に一度行っている。アンガーマネジメントを理解してルーティンワークにならないよう又、不適切なケアしていないかチームで防止に取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護、市民成年後見人制度を利用されている方がおり、必要性については理解できている。今後も活用できるようにしていきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、重要事項説明書や契約書の説明を行っている。法改正などの際も説明し同意を得ている。</p>		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入苑時に要望や意見は必ず聞いている 普段から利用者との関わりの中から個々の思いや意見を引き出せるよう時間を作っている。面会時に家族の意見や要望を聞いて運営に反映している		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	個別面談やカンファレンスを通じて意見や提案を聞く機会を設け働きやすい環境づくり、利用者のケアに反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況の把握に努め一人ひとりの勤務状況を把握して評価をしている。働きながら資格取得できるようシフトの調整などもしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間社内研修を月に一度の頻度で行っている。全員が受けれるよう、動画で撮って、不参加の方に見て頂いている。資格取得の際には相談にのって本人が安心して取り組めるよう協力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	岸和田市の介護保険事業者連絡会を通じて他事業所との交流している。市内8か所のグループホームと情報交換会を開催し制度や現在の状況や困っていることの相談などを行っている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の状況、生活歴や習慣をお聞きしスタッフとのお話の時間を作り、信頼関係が築けるよう努めて本人や家族が安心できるようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談の段階で困っていることなど状況をお聞きして本人が安心できるような環境づくりをしている。本人が安心できるよう思いを傾聴しその内容をみんなで共有できるようにしている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からの情報を基に状況を理解し本人にとってより良い環境で生活ができるように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを役割として行ってもらっている。洗濯や調理などを一緒に行ってる中で家族の一員として共に支えながら生活している。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当者から利用者の家族に本人の様子がわかるように写真いりのお便りを送っていて家族から楽しみにしているとお声を頂いている。家族が来苑された際は本人も一緒にお話しをして関係づくりをしている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は家族の協力を得ながらお墓参りや以前の住居の近隣のかたに会いいくこともあったがコロナ以降近所や親せきの方の面会ぐらいできていない。		

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりに状態に応じて食事の席の位置や会話などには気をつけている。利用者同士の会話やできることを考慮して都度、席の入れ替えを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の際に着ていた衣類を思い出の品にリメイクしてお渡しする。退去後もなにかあれば連絡が可能であることを伝えている。入院された際などは以前は面会に行っていたが、コロナ以降はできなくなっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや意向に添えるよう記録しみんなで共有できるようにしている。意思疎通が困難な方は行動や表情、家族からの情報を得ている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入苑相談時から生活歴や習慣などをお聞きして今までの生活環境、習慣、希望や思いをお聞きしている。入苑後の経過や会話から気づいたことを記録して情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化や生活状況を観察し本人ができることやできないことを把握し残存能力が発揮できるよう自信を持ってできるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、利用者を現状を記録し都度、カンファレンスで話し合っている。3か月のケアプランまたモニタリング時に家族や本人の意見や要望を伺い、様々な意見を取り入れて作成している。		

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子は個別の介護記録に記録して情報共有し心身の状態の把握に努めている。健康面でも通院報告者や申し送りなどの記録を活用してモニタリングしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の要望や意見を取り入れ必要とされるサービスに取り組んでいる。入退院の支援や身の回りの物品購入や本人にとって必要なサービスの支援は家族の状況によって行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>以前は町内の行事(近くの神社での初詣や十日戎、消防訓練)や盆踊りなどに参加していたが、コロナ過以降は中止している。現在は介護相談員の受け入れは再開している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の(主治医)の選択は本人又は家族に選択して頂いている。苑の連携しているDrを選ばれて場合は以前のDrの情報提供書を頂きスムーズに適切な医療が受けれるようにしている。又他の専門医への受診支援も行っている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと契約し毎週健康管理して頂いている。24時間オンコールで対応して頂き、普段から不安なことや気づいたことなどに適切にケアできる関係ができています。</p>		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された場合は本人の状況、生活の様子、認知症状を含めて病院に情報提供している。病院側の退院に向けたカンファレンスにも家族と一緒に参加し、早期に安心して退院できるよう連携している。コロナ過前は面会に行き関係が途切れないようにしていた。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>職員はターミナルケアについての研修を受けており、重度化した場合は本人、家族の意向を聞き、主治医や看護師などと連携をしながら支援している。本人の状態に応じて家族に説明し早めに苑で出来ることなどを説明し最期まで本人らしく過ごせるように取り組んでいる</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDの設置に伴い、緊急時の研修を受けている。又急変時は24時間オンコールで訪問看護ステーションの連絡できる体制をとっている。事故発生時は緊急連絡先順により適時、対応している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>コロナ過で避難訓練はまだ行っていないが、予定している。BCP策定途中ではあるが、防災の研修に参加してまずできる予防はしている。災害に備えて飲料水、ランタン、ポータブル充電器、カセットコンロなどは備蓄している。食料はプロパンガスなので米の予備で対応。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシー保護の研修はまだ行ってないが入職時に秘密保持の誓約書を交わしている。個人情報については書類は鍵付き書庫、パソコンはパスワード設定で閲覧履歴がわかるようになっている。介護ホスピタリティーの研修を通じて言葉かけや対応について勉強し実践を心かけている。又SNSや写真掲載については個々に同意書を交わしている。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>個々の思いや希望が言えるような環境に配慮し家族からは今までの暮らしぶりや習慣や好まれていたものを聞き、意思表示ができない方は日頃からの言動や表情を観察しできることを増やせるよう支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日常のスケジュールはあるが、個々の生活習慣やリズムの把握、本人の希望に沿って支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>入苑時には今まで着ていた衣類を持参して頂くようにしている。衣類が不足している時は家族に持参して頂いたり、一緒に買い物に行って選んで頂いている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節や行事に応じたものを出すようにしている。野菜の下ごしらえや洗い物などは積極的にして頂いている。本人が好きなものなど家族に依頼し提供したり、近所からの差し入れの野菜の処理を一緒にするなどしている。</p>		

41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事量、水分量を記録し必要量が取れているか確認している。水分が摂りづらい方は好みのもを用意したり夜間の空腹がある人には軽食などを提供している。体重は入浴毎に測定している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを個々の状態に応じた方法で実施している。就寝前は義歯を預かり薬で洗浄。希望される方は4回/月、提携歯科により口腔ケアを実施している。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別の排泄パターンを把握し本人の排泄量や時間によって紙パンツやパットの種類を考慮して使用している。本人のプライバシーに配慮した声かけや介助を心がけている。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認と水分摂取の把握と適度な運動を働きかけてをしている。困難な方は腹部マッサージや繊維豊富な食べ物の提供をしても困難な方は主治医に相談し便薬の調節をしている。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回、午後から入浴して頂いている。お湯の温度は個々の好みで順番を考慮したり、入浴剤の香りなども変えている。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂いている。入浴日でなく希望があれば他棟のお風呂を利用して頂いている。		

46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>できるだけ、入苑前に使用していた寝具を持参して頂くようお願いしている。天候が良ければ、布団干し、シーツなどの洗濯をこまめに行い、生活リズムを整えて快適に就寝できるよう心がけている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個別に服薬の一覧表を作成しスタッフ間で情報を共有している。薬については効用や副作用は確認、理解し疑問点は連携している薬剤師にいつでも相談できるようにしている。往診には必ずスタッフが同行し病状の変化を報告し変薬の確認をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入苑時に得意や楽しみ、趣味を聞いてできることはして頂き、できないことはお手伝いすることで出来るよう支援している。好きな嗜好品はできるだけ提供できるようにしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>近所に散歩して季節の花などを楽しまれていることが多い。お買い物に同行することもあるがコロナ過からほとんど外食などはしていない。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には苑で立て替えて後日請求する形式だが、紛失しても支障のない少額のお金をもっておられる方もいる。買い物の同行でご自身でお金の支払いはされていない。</p>		

51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話は居室に持ち込み可能にしている。充電はスタッフが手助けしている。又持っていない方は事務所でいつでも使えるようにして、知人や家族からの電話はすぐに繋いでいる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは音楽、光、温度、湿度が快適になるよう配慮している。季節が感じられるように花や壁面で工夫している。お料理や週刊誌の本やパズルなど利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを置き、一人で過ごしたり。お昼寝をされたりしている。庭のウッドデッキなどで自由に寛いで日光浴などを楽しまれている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自宅で使っていた物を持参して頂くようにしている。（寝具や家具や仏壇など）本人の歩行や同線を考慮し安全で過ごしやすい環境になるよう工夫している。定期的に押し入れやタンスの整理や衣替えをしている。</p>		

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やリビングは安全で過ごしやすい環境整備を行っている。タンスの引き出しに衣類の表示をして混乱しないよう配慮している。		
----	---	--	--	--

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない